



SS 探究科学Ⅲ ティベート3連戦 開催

環境科学科3年生は「SS探究科学Ⅲ」の授業で、科学技術の発展と社会問題の関係について理解を深めるためにディベートを行いました。ディベートの対決に向けて事前にインターネットや図書館で調査を進め、資料をまとめました。以下の3つの対戦で白熱した議論が行われました。

第1回 5月23日 「日本は、遺伝子組換え食品を認めるべきである。是か非か。」

第2階 5月28日 「日本は、商業捕鯨を再開すべきである。是か非か。」

第3回 6月4日 「日本は、積極的安楽死を法的に認めるべきである。是か非か。」

以上のディベートを進める中で、環境、食糧、医療問題等に関連する科学技術について日本の現状理解とその発展を考えるとともに、科学倫理についても意識し、討論することができました。また、同時に言語活動を活発に行うことにより、コミュニケーション力の育成も行いました。各対戦には、それぞれ審査員として中学校3年生、普通科文系2年生、環境科学科1年生が参観しました。この様子は、テレビ・新聞でも報道されました。参観した生徒も、議論を聞くなかでそれぞれの議論の内容について理解を深めることができました。



SS 環境科学 市内河川水質調査 実施



5月1日和歌山市内の河川水質調査が行われました。これは向陽高校環境科学科が毎年行っているもので「和歌山市内の河川を流れる水はきれいなのか」「河川は生物が生きていくのには適しているのか」という疑問のもとに環境科学科1年生が中心となって取り組んでいます。市堀川、大門川、和歌川、和田川などの河川沿いの橋ごとに分かれ、河川の採水を行いました。その後、学校に戻り、パックテストによる各成分定量を行い、自分達の調査結果をまとめました。また、7月には和歌山大学教育学部の木村憲喜教授を招いて採水した水について、さらに化学分析を行い、詳しい調査が行われる予定です。



2年生普通科「KECRe（ケクレ）II」始まる！

第3期向陽SSHの大きな特徴の1つである、普通科におけるSSH活動の「KECRe II」（向陽環境課題研究：Koyo Environment Challenges Research）が始まりました。2004年以降、日本の人口は過去に例を見ないような急激な減少を続けています。一方で、グローバル化は進み、科学技術は目覚ましく進歩しています。誰も経験したことのない日本の現状の中で、日々同じことをただ繰り返すことしかできない人間ではロボットにかないません。そのためにも「主体性」と「国際性」を身に付けていく必要があります。これは、まさに第3期向陽SSHの目指すところです。またこれは、文部科学省の掲げる新しい「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度）」とも合致しています。現在、理系生徒は課題研究におけるテーマ設定のためのマインドマップ作成に、文系生徒は、ディベートに取り組んでいます。今後の活動が楽しみです。

